

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメールマガ担当です。

2月13日、釜石市出身の小山怜央（こやま れお）さんが将棋プロ編入試験にみごと合格し、岩手県人初の棋士が誕生しました。棋士養成機関である奨励会未経験のアマチュア棋士の挑戦は、全国的にも注目され、偉業達成のニュースは大きな話題になりました。藤井聡太五冠の影響で盛り上がりを見せている将棋界において、岩手県の若者が新しい扉を開いたことはとても喜ばしいことですね。

さて、我が家の子どもたちも小学生の頃一時期将棋にはまった時がありました。長男が小学校のクラブ活動で興味を持ち、自分でポケットサイズの将棋盤を買ってきて、私と対戦するようになりました。長男はなかなか私に勝てず、数日後、勝てる相手が欲しかったのか、低学年だった次男に将棋の楽しさを切々と語り、コマの動かし方を教えてあげるようになりました。次男も私たちの対戦を見ていて興味がわいたようで、すぐにルールを覚えてしまいました。子どもたちは、勝敗に一喜一憂しながらも兄弟で楽しそうに遊ぶようになり、その結果、子どもたちは格段に上達し、私は全然勝てなくなりました。将棋は、子どもたちに良い影響を与えてくれました。長男は、いつもは横柄に接する弟に対して、へそを曲げないよう上手に接するようになり、次男も、長男に勝つために将棋の本を借りてきて自主トレを行うようになりました。また、テレビゲームでは、相手を攻撃する言葉をかけながら対戦していたのに、対局中はお互い黙って指し合いました。その静けさは嫌ではなく、集中している様子が見ていて楽しかったです。

子どもたちの将棋ブームは長続きせず、その後は「デュエル・マスターズ」カードゲーム（通称「デュエマ」）にとって代わりました。子どもたちにせがまれて、私もデュエマをやらされる羽目になりましたが、いつしか自分専用デッキ（手札の構成）を作り、「マナチャージ。コスト4を使って〇〇を召喚！！」等と言いながらバトルするようになってしまいました。ご飯の支度ができているのに、子どもたちとカードを部屋中に広げ、デッキを作ったり対戦したりしていたので、妻に子どもと一緒に雷を落とされたことも度々ありました。

小山さんは、小学校2年生の時、携帯型ゲームをやりすぎて体調を崩したため、母親が代わりの遊びとして勧めたのが将棋だったそうです。はじめは、ルールが分からず、母親と弟と一緒にコマの動かし方から勉強し、その後、地元の将棋教室に通いだして将棋に熱中するようになったそうです。きっと将棋教室でのいろいろな方との対戦が大きな刺激になったのだと思います。小山さんを将棋に向かわせたのは、将棋のおもしろさだけでなく、携帯型ゲームでは味わえない、彼を取り巻く人たちとの関わりが大きかったかもしれません。

小山さんの快拳をうけて、大人になった子どもたちと昔のように将棋やデュエマをしたくなった今日この頃です。

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★